

PRESS RELEASE

2016年3月23日
株式会社三菱総合研究所

日銀短観（2016年3月調査）予測

株式会社三菱総合研究所（代表取締役社長 大森京太 東京都千代田区永田町二丁目10番3号）では、4月1日（金）に日本銀行より発表される予定の「企業短期経済観測調査（日銀短観）2016年3月調査」の業況判断DIについて予測を行った。

大企業・全産業の業況判断DI	————	+ 16%ポイント（12月調査比 ▲2%ポイント）
同・製造業の業況判断DI	————	+ 8%ポイント（12月調査比 ▲4%ポイント）
同・非製造業の業況判断DI	————	+ 25%ポイント（12月調査比 変化なし）

業況判断DI（大企業・全産業）は、+16%ポイント（前回12月調査から▲2%p低下）と2期連続の低下を予想する。新興国経済の減速や円高進行などにより、製造業を中心に業況悪化を見込む。

製造業の業況判断DI（大企業）は、+8%ポイント（前回調査から▲4%p低下）と予測する。素材業種では、新興国経済の減速などによる需給バランスの悪化から、鉄鋼や非鉄金属などの販売価格が一段と低下しており、経営環境が悪化。加工業種は、原油安を追い風に自動車は比較的好調なもの、企業の想定為替レートを上回る円高の進行により、採算が悪化している。

非製造業の業況判断DI（大企業）は、+25%ポイント（前回調査から変化なし）と予測する。製造業の生産活動の弱含みや資源価格の下落が卸売などの業況悪化要因となる一方、電気・ガスや運輸などでは原油安によるコスト低下が業況改善に寄与するほか、インバウンド需要の増加も小売やサービスを中心に業況改善要因となる。

先行きの業況判断DI（大企業）は、製造業は+5%ポイント、非製造業は+24%ポイントとやや悪化を予測する。米国の今後の利上げペースや大統領選の行方、新興国経済の減速度合、資源価格の動向、地政学リスク、日本の消費税増税の行方など、先行きを見通すことが難しい材料が山積していることが、企業のマインドを慎重化させる可能性が高い。

日銀短観（2016年3月調査）業況判断DI 予測結果

「良い」-「悪い」 単位：%ポイント		実績		予測	
		2015年 9月	2015年 12月	2016年 3月	2016年 6月
		9月調査 「最近」	12月調査 「最近」	3月調査 「最近」	3月調査 「先行き」
大企業	全産業	19	18	16	14
	製造業	12	12	8	5
	非製造業	25	25	25	24
中堅企業	全産業	12	14	13	11
	製造業	5	5	3	1
	非製造業	17	19	19	17
中小企業	全産業	3	3	2	0
	製造業	0	0	▲2	▲5
	非製造業	3	5	5	3

注1：シャドー部分が2016年3月調査の予測値。

注2：「先行き」は、調査時点から3か月後を表す。

資料：実績は日本銀行「企業短期経済観測調査」、予測は三菱総合研究所。

《本件に関するお問合せ先》

株式会社 三菱総合研究所 〒100-8141 東京都千代田区永田町二丁目10番3号
政策・経済研究センター 森重彰浩 坂本貴志 田中康就

電話：03-6705-6087 FAX：03-5157-2161 E-mail：takashi_sakamoto@mri.co.jp

広報部 上岡・瀬戸口 電話：03-6705-6000 FAX：03-5157-2169 E-mail：media@mri.co.jp

尚、本資料は、内閣府記者クラブ、金融記者クラブに配布致します。